

平成31年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	国際社会に目を向け、地域に貢献し、社会で活躍できる人材を育成する学校
--------	------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びにより、学習習慣を根付かせ、基礎学力の確実な定着を図り、学力向上に取り組ませる。 組織的計画的なキャリア教育により、目標の実現に向け努力を継続させる力を身に付け、行きたい進路の実現に挑戦させる。 活力ある学校生活により、責任感、社会性、主体性、協調性を涵養し、心身の健やかな成長を図り、目標を達成する経験を積ませる。 効果的に地域・保護者と連携し、協働をすすめながら、各種教育活動に取り組む。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価				年度評価(1月31日現在)			
年 度 目 標				年度評価(1月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じたアクティブ・ラーニングの授業実践は進んできた。さらに生徒の実態に応じた効果的な授業改善を進め、学力の向上を図りたい。また、各教室にプロジェクトが設置され、タブレットも配置された。ICTを活用し、効果的な授業も実践していきたい。 考査前以外の家庭学習時間は伸び悩んでいる。週末課題の取組状況も低調で、見直しが必要である。朝学習は定着してきたので、指導内容を可視化し、一人一人に応じた学習指導を確立させ、基礎学力の定着を図りたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業改善の効果はあったか 個に応じた学習指導の成果は得られたか 	<ol style="list-style-type: none"> タブレット活用プロジェクトメンバー5名を指定し、効果的な活用方法を実践し、活用方法を他の先生方にも広める。 <ol style="list-style-type: none"> 各教科の授業内容を共有し、教科間で授業連携ができる環境を整える。また、評価の基準等について、生徒に周知する方法を工夫する。 各学年に基本・発展のレベル分けをした週末課題を提供する。 <ol style="list-style-type: none"> 生徒の学習量アンケートを総合的に分析し、学習指導の改善に役立てる。 朝学習を継続的に全学年で実施し、学習する習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。 朝学習や週末課題について、内容を精査し、朝学習→授業→週末課題が連動する統一的な仕組みを構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> プロジェクト、タブレットの利用頻度が上がったか。その上で生徒が授業に主体的に取り組めたか。 <ol style="list-style-type: none"> 教科間で授業内容の共有がなされたか。評価基準などについての情報を生徒に伝えることができたか。 定期的・継続的に課題を提供し、生徒の家庭学習を促すことができたか。 <ol style="list-style-type: none"> 教科間の連携を行うことができたか。 朝学習を学校全体で取り組み、全生徒が取り組んでいたか。また、学期末まとめテストの得点が向上してきたか。 効率的、効果的で朝学習・授業・週末課題が連動する学びの仕組みが構築できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の効果は概ね認められたが、個に応じた学習指導の成果には課題が残った。 ①授業での生徒同士の学び合いや議論、発表等AL的手法を用いる教員は100%である。また、プロジェクトやタブレット等のICTを活用して授業を行う教員が半数以上(53%)に増加し、生徒アンケートでは、授業に主体的に取り組んだ生徒は95%に増加した。 「学習指導内容表」(指導のねらい、評価の観点、考査以外の評価の資料等)を作成し、全校生徒・保護者に配布し共通理解を得られた。 ②学習量アンケートでは考査期間外に「勉強をほとんどしない」生徒が70%以上、授業内容が理解できている生徒が75%であり学習習慣の定着に課題が残る。朝学習は96%の生徒が「しっかり取り組んでいる」と答えており、一定の成果があったが、朝学習と授業や週末課題の系統立てた学びの仕組みは、現在も検討中である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】AL的授業やICT活用、知識構成型ジグソー法など授業改善に取り組んでいるが、目に見える生徒の学力向上には至っていない。授業中に授業内容を理解している生徒の割合は75%であり、残り25%は時間内に理解できていない。個に応じたきめ細やかな指導の充実が更に求められる。 【対策】授業公開週間の実施など教員が切磋琢磨できる環境で授業改善に取り組み、教科指導力の一層の向上を図る。 学習内容指導表を更に生かして生徒が自らの進路に向けた学びの地図を描けるように指導する。 6月の3者面談以外にも各学期に生徒との個別面談を実施して一人一人の生徒に対応した指導を実施する。また、ただ生の学習量を増やすことを主眼に置くだけでなく、朝学習や週末課題なども個に応じた学習を効果的に実施する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画を見直し、「入れる」進路先から「入りたい」進路先へとの意識が生徒・教職員間でも浸透してきた。ポートフォリオを蓄積しながら、生徒の実態を把握し、進路満足度を高める進路指導を実践していきたい。 キャリア教育の観点から国際交流を充実させ、国際社会にも目を向けさせたい。台湾への修学旅行、オーストラリアへの短期研修を予定しているので、異文化理解を促進し、国際社会に関心を持つ生徒をさらに育成していきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 進路満足度を向上できたか 国際理解・異文化理解を促せたか 	<ol style="list-style-type: none"> 1学年は様々な生き方を学び、望ましい職業観を身につける。2学年では模擬授業を通して希望進路先の意識付けを行うとともに、分野別ガイダンスや進路補習を行う。さらに3学年では、5分野別ガイダンス計8回を実施し、生徒各自の進路決定を促す。 姉妹校である台湾・丹鳳高級中学への修学旅行を中心とした国際交流を発展・継承させるとともに、オーストラリア・メリーボロー州立高校との本格的な交流を展開することで生徒の国際理解や異文化理解を深めさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 3学年の進路決定率を少しでも引き上げられたか(96%以上)。また分野別に細やかでかつ適切な指導で、生徒一人一人が満足いく進路決定に繋がられたか(進路満足度80%以上)。 生徒が世界を身近に感じながら、自らの視野を広めることができたか。外国の文化に対する理解を深めることができたか。外国の生徒たちとの交流、ホームステイ等とおして多文化共生のための素養を育めたか。国際交流の経験を通して、生徒自らの進路実現に向かう姿勢に変容が認められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路満足度の向上と国際理解・異文化理解については概ね達成できた。 ①進路指導では5分野(大学短大、専門学校、看護医療、公務員、就職)ごとの全8回のガイダンスを実施することができた。その結果、進路決定率は96%(1月31日現在)、進路満足度は88%であった。 ②4月には台湾・丹鳳高級中学との交流、8月にはオーストラリア・メリーボロー州立高校への短期研修、11月には台湾への修学旅行を予定通り実施できた。生徒の国際理解・異文化理解度は、1年42%、2年90%、3年80%の理解度であった。また、外国語を主に学ぶ大学や専門学校へ進学する生徒が増加するなど、国際社会に関心を持つ生徒の育成が図られてきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】生徒の進路満足度は高いが更に高みに挑戦する意欲が薄い。「入れる」進路先から「入りたい」進路先へと生徒の進路決定において、生徒および教職員も更に高い意識を持つ必要がある。 国際交流事業は大きな成果を上げてきているが、その意味での交流に言語能力は必須である。英語での生徒同士の交流の場を多く求めたい。 【改善策】早い時期からの進路への意識づけを系統立てて展開する。 更に魅力ある就職先ならびに進学先の新たな開拓、指定校推薦枠等の拡大に努める。 生徒の英語力を底上げし、台湾やオーストラリアの学生と英語を使った交流を目指す。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事などは生徒会の生徒を中心に主体的に行動できるようになってきたが、全体的には不十分である。行事の見直し・改善、委員会活動の活性化を含め、生徒の主体性を育てたい。 部活動は活動の適正化・魅力化を推進し、活動方針について保護者に理解を求めながら、生徒の心身の成長を図りたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の主体性・協調性を向上できたか 部活動・生徒会活動の活性化・魅力化は図られたか 	<ol style="list-style-type: none"> 挨拶運動や地域ボランティアの実施など、活力ある学校を目指した各種委員会の活動内容を生徒たちに企画運営させ、主体性と協調性の向上を図る。 全職員で「面倒見のよい部活動」の意思統一を図り、部活動未加入者削減に取り組むとともに活動場所や施設設備の確保、活動時間や週当たりの活動日の適正化を図る。また、生徒会主催行事に多くの委員会、部活動の生徒も運営に関わる機会を設けることで生徒会活動の活性化を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 各行事後にアンケート(生徒と教職員)を実施し、委員会の生徒が運営に関わる機会を設けられたか。改善点やアンケート意見の内容を検討し、生徒が主体的に積極的に参加、活動できる行事を企画、運営できたか。 部活動の未加入者は減少したか。部活動や生徒会活動の活性化は図られたか。また、学期ごとに行われるアンケートの中に部活動等に関する質問項目を入れて調査を行い、学校生活満足度を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性、協調性の向上は生徒アンケートによると概ね達成できているように見えるが満足いくレベルには達していない。部活動や生徒会活動の活性化・魅力化については更に取り組む必要がある。 ①生徒アンケートでは90%以上の生徒が学校行事に積極的に参加し、充実していたと回答しており一定の成果があった。また、風紀委員会での挨拶運動の実施、新聞委員会での学校新聞年5回の発行など、委員会の活性化が図れた。 ②年度当初に保護者向けに活動方針等の文書を出し理解と協力を得るとともに、部活動加入率は85%、未加入者は15%、部活動に対する生徒の充実度は70%以上であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】主体性や協調性を発揮して活躍している生徒は生徒会や特定の部活動、ボランティア有志等に限定されている。多くの生徒が主体的に活躍できる仕組みが求められている。部活動では多くの生徒が直向きに取り組む、加入率も低くないが、取り敢えず入部しているというケースも見受けられる。 【対応策】現在実施している多くの地域連携事業にさらに多くの生徒の参加を促すとともに、探究活動の活性化に努める。 部活動の転部も可能であるが、時期によって受け入れが不可能な場合もある。無理がなく効果的な転部の在り方を検討する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動では、昨年度一定の方向性が見えた。今年度は地域との連携をさらに図り、生徒の探究力の向上に努める。 保護者また中学生の本校への訪問の機会が少ない。学校公開を魅力あるものにし、外部への情報発信を定期的に行い、多くの方に学校を覗いてもらい、活性化していきたい。特にホームページによる情報発信を積極的に実施していきたい。 	<ol style="list-style-type: none"> 探究活動を推進できたか 外部へ向けて情報発信の量を増やすことができたか 	<ol style="list-style-type: none"> 1学年では、「身近な地域」を対象として探究活動の技法を習得する。2学年では修学旅行と併せて、様々な情報を収集し、「国際理解」をより充実したものとする。3学年では、地域の様々な諸問題の中から課題を見つけ、「地域創生」等に関するテーマで探究活動を行う。 保護者に対して、ホームページやメールシステムなどのツールを活用し、公開授業、保護者会などの情報量を増やす。学校ホームページをリニューアルし、効果的に情報提供できるようにする。紙面による保護者への通知をホームページやメールシステムを活用したものに變更していく。PTA総会や理事会を通じて、校内における教育活動の情報提供を積極的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 実施計画に基づき、探究活動を行うことができたか。地域と連携を図り、探究活動の結果を明示することができたか。課題意識を明確にもち、課題を深く掘り下げて調べ、解決する力が育成できたか。 本校ホームページのアクセス件数が増えたか。メールシステムを利用した情報提供の回数が増えたか。PTA総会や理事会の教職員の参加人数が増え、多くの情報を提供できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動は学年毎にテーマを設定し計画どおりに実施できた。生徒は真摯に取り組んだが課題解決能力や探究力の向上は充分とは言えない。また学校の情報発信はかなりの充実を図ることができた。多くの方々を学校に招き入れ学校の活性化につなげることは道半ばである。 ①生徒アンケートでは、周囲と協力しながら積極的に取り組めたと答えた生徒は88%であった。課題を深く掘り下げようとする力の育成は、課題が残る。 ②全教職員でHPの更新を定期的に行い、アクセス件数は昨年度1日平均700アクセスから今年度は1日平均1,000アクセスと大幅に増加した。また、PTA総会や理事会は計画通り実施できた。参加人数は例年並みであり更なる活性化に向けての工夫が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】地域と連携した探究活動を展開しているが、探究活動の時間確保が難しく、生徒に十分な時間を与えられていない。また、保護者の本校への訪問機会が多いとは言えない。生徒経由での通知が保護者の元に届きにくいことも原因であり、周知が徹底できていない。 【対応策】生徒に長期休業期間や週末等を利用した探究活動を計画させ不足する時間を補い探究力の向上を図るとともに、その活動をとおして地域との連携を一層深める。 メールシステムとHPを併用して保護者への通知や連絡を徹底する。これまで同様に学校からの情報発信の充実にも努めつつ、PTA役員に協力をお願いしながら多くの保護者を学校に招き入れPTA活動の活性化を図る。

学校関係者評価	
実施日 令和2年2月12日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニングの実践が素晴らしい。 学習量アンケートの結果、学年が進むにつれて学習時間が減っている。その原因を調査してほしい。 スマートフォンのタッチパネル操作は得意だが、キーボード入力は苦手。タイピングの練習も必要。 スマホの使用時間が長いとアンケートで出ているが、そこを利用し、スマホアプリで勉強させるのも良いのではないかと。 埼玉県全体の授業時間は他県に比べて確保されていない。やはり学習する習慣を身に付けさせるべきであろう。 タブレットやパソコンを活用し、調べ学習などは宿題にしてみるのが良いのではないかと。 目指す学校像を教員や生徒が分かっている。教員や生徒が分かりやすい目標にするべき。 私立と公立に格差が生まれている。そこをどうにかするしかない。明確な目標設定と大胆な判断が必要。 定期考査で平均点が50点に届かない教科がある。生徒が原因なのか、教科に原因があるのかはっきりさせ、改善してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者から見ると生徒に、進学や就職のビジョンがない。3者面談など回数を増やす必要があるのではないかと。 公務員の合格率が良い。講座や対策をしっかり指導しているのと思う。実績が良いので感心している。 オーストラリアの研修は素晴らしいと思う。引き続き頑張してほしい。また、生徒同士の英語での交流はどのように行っているのか。英語力の底上げに具体的な対策を立てて取り組むと良いのではないかと。 職業を知る座談会は体育館から教室へ場所の変更は良かった。やはり机があつてお互いが話せた方が良かった。だが、クラスによって進捗がまちまちであり、終了時間に大分差があつた。その管理や調整をして、さらに良いものにしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒に主体性を育み、更に活力ある学校にするためには、もっと学校とPTAとの連携強化が必要であろう。 行事は落ち着いて良い雰囲気で行われている。子どもたちが楽しんで行っている様子が伝わってきた。生徒が中心で行事を行っているようで良い。 行事は、体育祭、文化祭、ロードレース大会など、保護者からの評判が良かった。もっと多くの方に観に来てもらう工夫が必要だ。 	
<ul style="list-style-type: none"> 探究活動で高校生が調べて発表するのは難しいと思うが、発表を参観し、とても良い発表もあり、今後も探究活動に協力できれば良いと思った。 探究活動は保護者にあまり知られていない。もっと保護者に観てもらふ機会を作るべきである。 保護者へのメール配信システムは、確実に保護者が受け取れるようになっていない。途中で携帯を変えて、学校から情報が入らないということもあつた。子どもが文書を親に渡さないこともあるので、もっとメール配信システムを活用してほしい。 保護者の方々は、年に5回くらい学校に来てほしい。その様な意識付けを図ってほしい。 保護者アンケートは厳しい意見が多かった。学校がアンケートに回答することも使命だと思う。前向きに検討しているというのを見て取れた。やはり家庭の理解と協力を更に得るためにもPTA活動をさらに活発にし、保護者に学校への理解を深めてもらう活動が必要である。 	